



平成23年度 北中物語

平成23年5月9日 5号

文責:校長 中村 裕子

校長メールアドレス yuko-nakamura@staff.gsn.ed.jp

表彰第1弾

web仕様

—— 勝っても負けてもまだ途中…… ——

◎ 藤岡多野中体連春季大会

- ☆剣道 男子団体 優勝
- ☆剣道 男子個人 優勝
- ☆剣道 女子団体 優勝
- ☆柔道 男子団体 優勝
- 男子個人 66Kg級 優勝
- 90Kg超級 優勝
- ☆柔道 女子団体 優勝
- 女子個人 70Kg級 優勝
- ☆バレーボール 男子 優勝
- ☆バレーボール 女子 準優勝
- ☆ソフトテニス 男子団体 準優勝
- 男子個人 優勝
- ☆ソフトテニス 女子団体 準優勝
- 女子個人 第3位
- ☆卓球 男子団体 準優勝
- 男子個人 優勝
- 女子個人 優勝
- ☆陸上競技 女子総合 準優勝

男子2・3年 砲丸投第1位

男子1年800m第1位

女子2・3年走幅跳第1位

女子1年100m第1位

女子2・3年砲丸投第1位

女子2・3年1500m第1位

女子1年1500m第1位

◎ 第38回多野藤岡ライオンズクラブ杯中学生ソフトテニス大会

男子の部 第3位

女子の部 第3位

◎ 第28回安曇野少年野球大会 第3位(24チーム中)

◎ 第40回藤岡市貸し少年少女ソフトテニス大会 女子の部 第3位



本日の会礼のテーマは「意識」でした。話の概要は次のとおりです。

日常の行動に「意識」を加えるだけで成果が全然ちがってくる。これは勉強も部活動も清掃では特に言えること。早ければ、2週間で成果が出てくる。つまり実力がついてくるということ。日々、「意識」した「行動」を「継続」すれば、あなた方が願っていることは必ず叶えられる。

5月の北中のステージは「自律」、「律」は「意識した行動」で成し得る。しかも、学校中で「意識しあえば」さらに大きな力となる。先生方もその気でやっている……。等との内容でした。

母親の教育力はすごい！

昨日は「母の日」でした。あちこちの店には、カーネーションや様々な母の日グッズが並んでいました。(どんなに不景気でも、「母の日グッズ」の売れ行きは落ちないのだそうです) 来月には、「父の日」がありますが、どう見ても分が悪いようです。(子どもへのかかわりの差でしょうか) それはさておき、子が親に感謝の気持ちを表すのは喜ばしい限りです。お母さんたちは、贈り物の値打ち以上に、その気持ちに、日頃の苦勞も忘れ感激されることでしょう。

先日、母への思いを込めた五行歌集『一度だけのお母さんへ(草壁焔太・山と溪谷社)』を読む機会に恵まれました。その中でぐっときた3つの作品を紹介します。

「あんたにはもう 何もしてやらないと けんかした夜 手作りの 弁当があった」
(速水裕子)
「『おかえり』 母の声が聞きたくて 『ただいま』 何度も叫んでみる 一人の部屋で」
(緒田すいれん)
「あんたはええ子 一生破れない マントのように 母の言葉 まとってる」
(高樹郷子)

本当に「母親の教育力」は偉大ですね。贈るべき母を亡くしてしまった私にとっては、ことさら心に染み入る言葉ばかりです。誰もが、数々のおふくろの味、母親のさりげない一言、つつましく働く後ろ姿にどれほど元気づけられ、勇気づけられたことでしょうか。

ところが、長らく続いたこのような母親のイメージが社会の変化につれて崩れてきているように思います。「おふくろの味」が「袋の味」になり、小言や文句が増え、「しつけ」が「おしつけ」になり、後ろ姿も見えにくくなりました。それどころか、最近では、子どもへの虐待や養育放棄、あげくには子殺しまで、親失格のニュースに出くわすことが多くなりました。「母の日」は、子が親に感謝する日であるとともに、母が親としての役割を果たすことを誓う日でもあるように思うのですが……。

子育ては「くるたのしい」と言った人がいます。これは、親業は、「苦しいけれども楽しい」という意味のようです。(子育てには後悔が多い私ですが共感できます) また、ある人は、「育児は『育自』」と言っています。これは「子どもを育てることを通して自分が育つ」ということで、「自分育て」ですね。

どうぞ、お母さん、「母」というこの上ない存在を誇りに、自分自身を変えたり、高める努力を、お父さんと一緒にがんばってください。「母」があらゆる教育の「要」であることは、昔も今も変わりません。



